

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

会員挨拶



稚内市副市長 工藤 廣

皆さん、こんにちは。初めまして。

今、ご紹介をいただきました日本の最北端、北海道稚内市の副市長をしております工藤といいます。

私も今日初めて輪島市を訪れさせていただきました。実は、去年のこの会合は私どもの町で開催をさせていただきました。その節は、会員自治体の皆様、そして国土交通省を初めとして関係者の皆様には大変お世話になりました。改めまして、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと、そのように思います。

私どもの町と輪島市と、距離で言えば1,000キロを超えるだけの距離があるんだと思います。そういう意味では、先ほど珠洲市長さんもおっしゃっていましたが、私どもの町の歴史、産業の原点というのは、やはり北前船であります。そういう意味ではよく町で話題になるんでありますけれども、私どもの町の市民もそのルーツをたどると、ほとんどの方が東北、そして北陸の日本海側の出身の方々に求められるというような町でもあります。そういう意味では、初めてお邪魔をさせていただきましたけれども、何かこの町との縁の深さといいますか、そういうものを感じさせていただいております。

近況報告ということですので、今年の我が町を語るとすれば、まさに世界地図に日本人唯一名前を残したという、有名な探検家であり測量家である間宮林蔵が、実は私どもの町の日本最北端の岬であります宗谷岬から樺太（43キロ先）に渡って、そして1,000キロ以上踏破をして、結果として間宮海峡を発見し、その間宮という名前を地図に残し、なおかつ樺太が島だということを発見して、実はことしは200年という記念の年であります。

そういう意味で、間宮林蔵にゆかりの地ということで、出生地は茨城県のつくばみらい市でありますけれども、私どもも、その探検の出発地として、今年はその先人の偉業を偲び、倣うために、いろいろなイベントを現在行っておるところでございます。

実は、北海道のことをお話しさせていただきますと、今年の北海道というのは雨が大変多くて蝦夷

梅雨なんていう話をしていますけれども、私どもの町も例年の2倍以上の雨が続き、低温が続き、正直、この先の農業、漁業に対する被害を大変心配しているところでございます。そうはいいまでも我が町は日本最北端にあるとはいいいながら、市内には74基の風力発電のための風車が立って、そして出力5メガという国内では有数の規模を誇る大規模太陽光発電実証実験サイトが建設されているというような、クリーンエネルギーの町でもございます。また、今お話ししましたように、今はもう異境の地となりましたけれども、サハリンと稚内港を定期フェリーで結んで、多くの方がそこを通りながらロシアに渡っているというような実績を残している町でもございます。

また、日本海に浮かぶ、日本で最も北にある島であります利尻と礼文島、この浮島を訪問するための稚内港は拠点ということで、国立公園を持つ観光の町でもございます。そういう意味では、これからも港、そして海を中心として我が町の発展を支えていきたいと、そのように考えております。

まことに雑駁でありますけれども、私どもの町の近況報告をさせていただいて、本日のこの講演会の成功を心からお祈り申し上げます。

本日はどうもありがとうございます。